

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	総合演習 II		
担当者(Instructors)	日栄 一真	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
音や音楽は、私たちの生活において欠かせない存在となり、単に聴くだけでなく、情報を伝える手段やコミュニケーションのツールとして、日常生活のさまざまな場面で活用されるようになりまし。この授業では、自分達の好きな音楽を能動的に深掘りし、社会の中での利用価値を探索し、新たな可能性を見出していきます。☒ この授業の受講を検討する学生は、総合演習Iの技術と知識が必要になりますので、総合演習Iを前期に受講してください。また、社会連携として、学外でのイベントを運営する場合もあるため、土日を含め、授業時間以外での活動がある場合があります。☒ 授業の受講には、スマートフォンと、PC(Win or Mac)が必要になりますので、必ず持参してください。ゲスト講師によるレクチャーが入る場合があります。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	制作演習のほか、他のイベントと連携した課外授業を行う場合があります。 シラバスの内容は状況に合わせて順番が入れ替わる場合や、内容が変わる可能性があります。 社会連携の一環として、学外イベントの運営に携わる場合があります、授業時間外や土日などに活動が発生することがあり、交通費が自己負担になる場合があります。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、課題、レポートの提出方法など	□
第2回	音の基礎	音の基本知識。音の大きさや高さや波の振幅や周波数、音色と倍音などの基本概念の理解	□
第3回	録音機材の準備	使用する機材の準備や、ソフトウェアのインストールなど、作業環境を整える	□
第4回	Recording 1	録音に必要な知識と技術、音の入力と出力の仕組み	□
第5回	Recording 2	マイクの種類と特性、マイクの位置による音の違い	□
第6回	Recording 3	音をデジタル信号に変換する仕組み、録音、編集、保存までの基本的な流れについて	□
第7回	MIX 1	MIXの基礎、DAWソフトの基本的な操作	□
第8回	MIX 2	EQとダイナミクス（コンプレッサー、リミッター）の基礎	□
第9回	MIX 3	センドリターンによる空間処理	□
第10回	制作・研究1	制作・研究のほか、イベントなどが入る場合があります。	□
第11回	制作・研究2	同上	□
第12回	制作・研究3	同上	□
第13回	制作・研究4	同上	□
第14回	制作・研究5	同上	□
第15回	まとめ	半期のまとめ	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
各自授業前に書籍、インターネットなどを用いて予習をし（2時間程度）、授業後に授業で配布した資料を用いて各自講義レポートをまとめる（2時間程度）。特に、制作課題は、授業以外の時間で制作する必要があります。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
課題は授業時間内に発表する時間を設け、その場でフィードバックを行います。また、毎授業後に簡単なレポートを課します、これに対し必要に応じて授業時間内に回答します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	デジタルテクノロジーを用いて音を制作、編集、配信する技術を習得し、音とテクノロジーの関係について理解を深める。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	音を多面的に捉え、人の営みの中で音がどのような意味を持つのかを考察し、社会に対してのアウトプットを提案できる能力を育む。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	音や音楽を通して、地域とつながり地域社会の活性化・発展に貢献できる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 授業内試験は、課題制作を課しこれにより評価を行います。 その他の加点は毎授業後に所要時間5分ほどのレポートを実施しこれを平常点とし評価します。このレポートを提出しない場合、平常点の加点がなくなるので注意してください				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		